

学校法人 聖ヶ丘学園 うみの風保育園

施設のアピールポイント及び課題 【2025年度（令和7年度）】

	アピールポイント	課題
I 利用者本人の尊重	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの最善の利益を考慮し、一人ひとりの子どもの発達や育ちや環境を踏まえ、その子にとって何が必要で大切か考え子どもの成長を見守り保育を行っています。 安心できる環境を整え子どもたちが安心して過ごせる温かい保育を職員全員で実践しています。 保護者と連携を取りながら子どもたちがのびのびと成長できる環境づくりを心がけています。 子どもたちが遊びを通して身近なものに興味関心を持ちながら何ごとにも自主的に取り組めるように支援しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの興味関心が更に広がるよう、子どもが自分から活動できる環境作りの重要性を認識し、工夫し改善に努めます。 乳幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿の理解を深め、引き続き保育の質の向上に努めます。 子どもの心身発達及び活動の実態などの個人差を踏まえた保育の展開に努めます。
II サービスの実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが興味関心をもって一人ひとりの子どもに専門性のある温かい声かけを行ない、子ども主体の保育を大切に意欲や探求を深められるよう環境設定に取り組みながら保育を行っています。 学園本部の養成校の文化祭で学生と交流を設けたり、姉妹園と辛ほりや園バス遠足に出かけたり連携を取っています。 全身運動を促すための環境作りとして、月に2回専門の講師による体操教室を行っています。 栄養士と連携を取りながら、クッキング活動を積極的に行ったり、毎月の献立に郷土料理のニューを取り入れて食べることを楽しみ、食べ物への興味を広げています。 保護者からの子育て相談については、丁寧に時間を掛けて対応しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの園での様子や行事の取り組みなどをホームページや写真、懇談会や保育参観など、様々な方法で引き続き分かりやすく伝えていけるよう努めます。 保護者アンケートを通して、保護者の方の意見等を伺い、行事や日々の保育に活かしていくよう努めます。 日頃から子どもたちの興味関心や成長に合わせた遊びや玩具等の入れ替えや整理整頓を心がけ、職員間で遊びの充実や安全面の共通理解に努めます。 感染症が発生した際は、速やかに罹患状況を掲示し情報提供及び蔓延防止に努めます。
III 地域支援機能	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の保育園や付属の姉妹園や小学校と交流をい、遊びの環境を広げたり、情報交換を行っています。 保育園見学の際や散歩先で一緒になった同世代の親子と遊びながら育児相談に応じています。 職員が地域の小学校に定期的に出向いて絵本の読み聞かせを行っています。また、地域の小学校の保護者の方が保育園に来て子どもたちに絵本の読み聞かせをしてくれます。 職員が中区子育てネットワークに参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園と小学校の職員同士で関係性を築き、円滑な接続につながるよう努めます。 ホームページの内容の充実させながら、地域の方に向けた子育て支援である毎月の誕生会の招待や図書の貸し出しの認知を高めていくよう努めます。 中区の専門機関と連携を取りながら、地域に向けた新しい子育て支援への取り組みについて検討していきます。
IV 開かれた運営	<ul style="list-style-type: none"> ホームページで様々な園の情報を発信し理解を深めてもらえるよう努めています。 年3回の運営委員会等を通して地域の方々や情報を交換しながら連携を図り相互理解を深めています。また、毎月園だよりを地域の小学校と町内会に配布し情報共有も行っていきます。 専門機関とも良好な関係が築けており、保育に活かしながら連携を図っています。 専門機関とも連携を取りながら、毎月様々な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページで発信する情報内容をより充実させ、更に開かれた保育運営につながるよう努めます。 実習生や職業体験やボランティアなど積極的に受け入れ、未来の保育士育成に向けて努めます。 毎月、様々な事態を想定した避難訓練を実施し、子どもたちと共に災害時の対応意識の向上に努めます。
V 人材育成・援助技術の向上	<ul style="list-style-type: none"> 保育士としての専門知識や技術を更に高めるために外部研修や園内研修に参加し、そこで得た学びを共有し自己研鑽に努めながら、園全体で質の向上にも努めています。 職員会議で毎月園内研修を行い、職員で共通の学びの場を設け日々の保育に活かしています。 毎月、非常勤会議を開き職員会議の内容を共有しながら情報交換を行っています。 職員は横浜市救急救命講習を受講し技術を習得し非常時等に備えています。また、年に1回北方消防署の方に指導をお願いし、救急法研修に全職員が参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に職員面談を実施し、人材育成の課題解決に向けて職員の相談・要望にも応えるよう努めます。 職員が自らの職位や職務に合った能力を身に付けるために研修を受け、やりがいがあるような環境づくりに努めます。 学園内での施設職員との交流を行うことにより、子どもの個性や発達の理解や保育の充実にも努めます。 職員会議や非常勤会議内容を職員全員で共有し、子どもたちの個性や成長発達を共通理解し、園全体で保育に取り組むよう努めます。
VI 経営管理	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が就業規則や規約を確認し、また守秘義務を守り質の高い保育を目指しています。 聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして、業務の効率化と改善に向け人事労務・財務等の面から分析を行っています。 毎年、運営・経営状況をホームページで公開しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして業務の効率化と改善に向けて引き続き努めます。 事業運営の透明性の観点等から、経営及び運営状況等の積極的な情報公開と保育展開に引き続き努めます。 引き続きICTを更に有効活用し、業務の効率化・ペーパーレス化に努めます。

評 価 票

事業者名 学校法人聖ヶ丘学園 うみの風保育園

2025年度

評価領域 I 子ども本人の尊重

評価分類 I-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成

評価項目 I-1-1 (1)

保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。

	判断基準	評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したものとなっている。	
	<input type="radio"/> 全職員が基本方針を理解している。	
	<input type="radio"/> 保育の理念や基本方針が明文化され、保護者にも周知されている。	
	<input type="radio"/> 保育の実施内容は、基本方針に沿っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育理念・保育方針・保育目標は職員会議で周知し、日々、意識できるよう保育室内に掲示している。 ・重要事項説明書に記載しており、保護者にも4月の園だよりや懇談会でお知らせしている。		

評価項目 I-1-1 (2)

全体的な計画は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。

	判断基準	評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 全体的な計画は子どもの最善の利益を第一義にしている。	
	<input type="radio"/> 保育の基本方針や家庭の状況、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成している。	
	<input type="radio"/> 全体的な計画の作成にあたっては、全職員が関わっている。	
	<input type="radio"/> 全体的な計画は入園時や年度当初には必ず保護者に説明している。また、改定した時には随時保護者に説明している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・全体的な計画は、新保育所保育指針に示す「乳児の3つの柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に、養護と教育の側面から発達過程に応じた目標やねらいを立てて作成している。 ・全体的な計画は年度末に見直し、次年度の計画に活かしている。		

評価項目 I-1-1 (3)

日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。

	判断基準	評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 全体的な計画に基づき、年齢ごとに指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 理解できる子どもには、必要なことをきちんと説明し、納得できることを大切にしている。	
	<input type="radio"/> 態度・表情などから子どもの意思を汲み取り、言語化できる子どもからは意見・要望を聞いている。	
	<input type="radio"/> 子どもの意見・意思を指導計画の見直しに生かし、子どもの自主性や主体性を育て、発揮できるような指導計画となっており、計画には柔軟性を持たせている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・全体的な計画を基に、各年齢ごとに月間指導計画を作成し、0・1・2歳児クラスは個別の計画を作成している。 ・幼児クラスは子ども達の興味関心のある遊びの延長線上に運動会や発表会があり、年長クラスは内容を子どもたちと話し合い決めている。 ・子どもの自主性・主体性を育てるため、一人ひとりの心に寄り添い思いを受け止め、応答的なやり取りを丁寧に行っている。		

評価分類 I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施

評価項目 I-2-(1)

入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者と面接している。	
	<input type="radio"/> 子どもの様子をよく観察している。	
	<input type="radio"/> 入園までの生育歴や家庭での状況を把握している。	
	<input type="radio"/> 面接時に把握された記録は、日々の保育に生かされている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・入園前に、児童表や生活状況書をもとに、個人面談を行い、成育歴や家庭の状況を把握している。 また、職員会議で面談報告を行い、職員で共通理解している。 ・0歳児は家庭での生活リズムを大切に個々の生活リズムに合わせて過ごしている。		

評価項目 I-2-(2)

新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 短縮保育（ならし保育）が必要な場合は保護者への説明を十分行っている。	
	<input type="radio"/> 0、1歳の新入園児に対しては個別に主担当保育者が決まっている。	
	<input type="radio"/> 子どもが心理的拠り所とする物の持ち込みができる。	
	<input type="radio"/> 子どもの生活の連続性の視点から、保護者への丁寧な連絡をノートで行っている。	
	<input type="radio"/> 在園児への配慮がなされている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・慣らし保育の重要性を伝えると共に、個々の状況に合わせて柔軟に対応している。 ・新入園児が安心できるよう、初めの2～3日は保護者も一緒に慣らし保育に参加している。 ・0～2歳児は個人別の連絡ノート、または各クラスドキュメンテーションなどで活動内容を発信し保護者と連携を取っている。		

評価項目 I-2-(3)

子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの発達や状況に応じて指導計画の作成・評価・見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、複数の職員が参画して作成している。	
	<input type="radio"/> 評価、改訂にあたっては、保護者の意向も反映している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・指導計画は、保育の内容に関する全体的な計画や保育所保育指針を基に、一人ひとりの発達状況に合わせて作成している。 ・毎年、年度末に職員で保育の内容に関する全体的な計画の見直しを行い周知している。		

評価項目 I-2-(4)

乳児保育(0歳児)において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの表情や喃語（乳児のまだ言葉にならない声）等に適切な対応をし、応答的な関わりをしている。	
	○ 保育士等が愛情豊かに受容し、一人一人の生理的・心理的欲求を満たし心地よく生活できるようにしている。	
	○ 一人一人の発育に応じて、はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かせるようにしている。	
	○ 身近な生活用品、玩具や絵本などが用意され、興味や好奇心が育つようにしている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・子どもからの発信に優しく丁寧に対応し、応答的な関わりを行っている。 ・子ども興味関心に合わせて、絵本や玩具の見直しを定期的に行っている。 ・保護者の方と送迎時のやり取りや個人の連絡ノートで情報共有し、細かい変化も伝え合っている。 		

評価項目 I-2-(5)

1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 自分でしようとする気持ちを大切に、見守ったり、受け止めたり、応答的な対応をしている。	
	○ 体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行い、子どもに合わせた対応をしている。	
	○ 一人一人の発育に応じて走る、跳ぶ、登る、押す、引っ張るなど、全身を使う遊びが楽しめるようにしている。	
	○ 探索活動が十分できるよう、活動しやすい環境を整えている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに興味関心が持てるよう関わりを大切に、さりげなく援助しながら、褒めて、認めて、励まし次への意欲につなげている。 ・子どもが好きな玩具で自由に遊べるよう、出し入れしやすい容器や棚に入れている。 		

評価項目 I-2-(6)

3歳以上児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 3歳児の保育では、集団の中で安定して、遊びを中心とした興味関心のある活動を行っている。	
	○ 4歳児の保育では、集団の中で自分の力を発揮し、友達とともに楽しめるよう遊びや活動を行っている。	
	○ 5歳児の保育では、集団の中で一人一人の個性が生かされ友達と協力して一つのことをやり遂げるような遊びや活動を行っている。	
	○ いろいろな遊びの中で十分に体を動かすことができるようにしている。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・無理に活動に誘わずに見守ったり、個別に対応しながら、少しずつ興味の幅を広げていけるよう努めている。 ・天気の良い日は、積極的に散歩に出かけ戸外で体を動かして遊ぶのを楽しんでいる。 ・子どもが自主性・主体性をもって友だちと楽しく遊べるよう、玩具や道具は使いやすい容器や棚に入れて、遊びが継続できるような環境を整えている。 		

評価分類 I-3 快適な施設環境の確保

評価項目 I-3-(1)

子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の屋内・外とも、常に清潔に保たれている。	
	<input type="radio"/> 通風・換気等が確保され、気になる臭いを取り除く工夫をしている。	
	<input type="radio"/> 施設内の温・湿度の管理が日々適切に行われている。	
	<input type="radio"/> 陽光を十分取り入れるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 音楽や保育者の声などが騒音にならないよう、配慮している。	
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・ウットデッキやベランダで遊ぶ際、日差しが強い時期は直射日光を避けるため遮光テントや日よけを設置している。 ・こまめに換気を行うとともに、各保育室ごとに空気清浄機やエアコン・扇風機や床暖房を設置し、快適に過ごせるようにしている。 ・感染対策のため、乳児クラス玩具の毎日消毒を行っている。		

評価項目 I-3-(2)

沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 沐浴設備がある（ただし、0歳児保育実施施設）。	
	<input type="radio"/> 温水シャワーの設備がある。	
	<input type="radio"/> 沐浴・温水シャワー等の設備の管理や清掃が十分に行われている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・ウットデッキにも温水シャワーを設置し、清潔を保てるようにしている。 ・5月～9月の汗をかく時期は、全クラス1日1回沐浴を行っている。		

評価項目 I-3-(3)

子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 低年齢児には、小集団保育が行われるよう、保育室の使い方を工夫している。	
	<input type="radio"/> 食べる・寝るなどの機能別の空間を確保している。	
	<input type="radio"/> 屋内に異年齢児間の交流の場がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・図書コーナーやエレベーターホールを使用し小集団でゆっくり遊ぶ環境作りを工夫している。 ・1歳児クラスは食事の空間と遊び・寝る空間を別に確保し生活している。 ・朝・夕の時間で異年齢で過ごす時間を設けている。		

評価分類 I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力

評価項目 I-4-(1)

子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 3歳未満児については、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 幼児についても、発達上の課題が見られたり、特別な配慮が必要であったりする場合には、個別指導計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 個別の目標・計画は定期的（月1回を目安）に見直すのみでなく、子どもの発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> 個別指導計画の作成・見直しにおいて、重要部分を保護者に説明し、同意を得ている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・0歳児～2歳児は個別の指導計画を作成している。 ・毎月、個別の指導計画は、振り返り見直しを複数担任で行い、次月の指導計画に活かしている。 ・配慮が必要な場合は、個別の指導計画を作成している。		

評価項目 I-4-(2)

子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもや家庭の個別の状況・要望を決められた書式に記録している。	
	<input type="radio"/> 入園後の子どもの成長発達記録がある。	
	<input type="radio"/> 子どもの記録内容は全職員が共有できるしくみになっている。	
	<input type="radio"/> 重要な申し送り事項が記録され、必要に応じて進級時や転園先の保育所等に伝達されている。	
B	保育所児童保育要録を小学校に送付している（5歳児在籍施設のみ）。その上でAの中で3つ以上に該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または、該当しない。	
その他の工夫事例： ・保育記録、児童票、生活状況書など、個人記録は個別にまとめており、全職員が閲覧できるようになっている。 ・毎年、保育所児童保育要録は小学校に送付している。		

評価分類 I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み

評価項目 I-5-(1)

特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 個別のケースについて会議で話し合われ、記録がある。	
	<input type="radio"/> 最新の情報を職員間で学習し、保育に生かしている。	
	<input type="radio"/> 共有する情報は記録され、いつでも確認できるようファイリングされている。	
<input checked="" type="radio"/> 特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢がある。		
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・毎週行う週案会議や毎月行う職員会議・非常勤会議などで情報共有している。 ・職員は療育センターなどの外部研修に積極的に参加し、会議で研修報告を行い保育に活かしている。 ・共有する情報はファイリングされ、全職員が閲覧できるようになっている。		

評価項目 I-5-(2)

障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> バリアフリーなど、障害児保育のための環境整備に配慮している。	
	<input type="radio"/> 保護者の同意を得て、医療機関や専門機関から助言や情報が得られる体制をとっている。	
	<input type="radio"/> 障害の特性を考慮した個別指導計画が立てられている。	
	<input type="radio"/> 障害児保育について全職員で学習し、話し合える体制ができています。	
<input type="radio"/> 障害児と他の子どもとの関わりに配慮をしている。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
過去3年間の受け入れ状況（一時保育での受け入れを含む）： 令和3年度：4人・令和4年度：4人・令和5年度：3人		
その他の工夫事例： ・個人の連絡ノートを用意し、家庭と密に連携を取り、個別の指導計画も作成している。 ・障害児保育については、重要事項説明書に明文化しており、共に育ち合える関わりに努めている。 ・療育巡回訪問や訪問支援で子どもの姿を共有し、得られた助言や情報は会議などで共有している。		

評価項目 I-5-(3)

虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 虐待の定義が全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 虐待が明白になった場合に、関係機関に迅速に通告・相談する体制を整えている。	
	<input type="radio"/> 疑わしい場合や見守りが必要な場合は関係機関と連携をとっている。	
<input type="radio"/> 家庭支援の必要な保護者を援助し、虐待の予防に配慮している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・関係機関と連携が取れるようになっている。 ・重要事項説明書に児童虐待の通告義務について明文化している。		

評価項目 I-5-(4)
アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができていますか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どものかかりつけ医の指示を受け、適切な対応を行っている。	
	<input type="radio"/> 全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知されている。	
	<input type="radio"/> 食物アレルギーにおいては、保護者との連携を密にし、除去食を提供している。	
	<input type="radio"/> 除去食を提供する場合は、誤食事故を防止するため専用トレイや専用食器、名札等を使用している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
過去3年間の受け入れ状況（一時保育での受け入れを含む）： 年度：2人・令和5年度：4人		令和3年度：2人・令和4年度：4人
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・「アレルギー疾患生活管理指導表」提出してもらい、医師の指示に従った対応を行っている。 ・除去食用の献立表があり栄養士・保護者・担任・園長で毎月献立表を確認している。 ・専用の食器や名札付きのトレイを用意し、食事を受け取る時は提供者と受け取る者双方で書類にサインをし、食事を提供する前は複数の職員で献立表を確認し、最初に提供することを徹底し誤食防止に努めている。 		

評価項目 I-5-(5)
外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 文化（言語・表現・食事）や生活習慣、考え方の違いを認め尊重している。	
	<input type="radio"/> 文化や生活習慣の違いを他の子どもたちが理解できるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 意思疎通が困難な場合の対応策がある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
過去3年間の受け入れ状況（一時保育での受け入れを含む）： 令和3年度：3人・令和4年度：4人・令和5年度：3人		
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・日本語を母国語としない子どもや保護者には、配布物を翻訳したり、ひらがなをふったりしている。 ・通訳機を使用して対応している。 		

評価分類 I-6 苦情解決体制

評価項目 I-6-(1)

保護者が保育についての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当した上で、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 第三者委員に、直接苦情を申し立てることができる。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、意見箱・懇談会・アンケート等で進んで要望や苦情を聞いている。	
	<input type="radio"/> 自分で意見を表明するのが困難な園児や保護者に対して具体的な配慮がなされている。	
	<input type="radio"/> 権利擁護機関など他機関の苦情解決窓口を紹介している。	
<input checked="" type="radio"/> B 要望・苦情を受け付ける担当者が決まっており、事前に保護者に説明されている。		
<input type="radio"/> C 要望・苦情の受付窓口が明確にされていないなど、取り組みが不十分である。		
その他の工夫事例： ・意見箱は人目に触れにくい所に設置するなど配慮している。また、苦情窓口を玄関に掲示している。 ・苦情受付は主任、解決責任者は園長で話しやすい雰囲気づくりに努めている。		

評価項目 I-6-(2)

要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 第三者委員を交えて対応する仕組みができています。	
	<input type="radio"/> 園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制がとられている。	
	<input type="radio"/> 要望や苦情の解決策が会議等を通じて職員に理解・周知されている。	
	<input type="radio"/> 過去の苦情・トラブルや要望のデータを蓄積・整理し、解決に生かしている。	
<input checked="" type="radio"/> B 要望や苦情を受け付け対応するためのマニュアル等文書化されたものが整備されている。		
<input type="radio"/> C マニュアル等文書化されたものが整備されておらず取り組みが不十分である。		
その他の工夫事例： ・福祉保健サービス全般に関する不満の申し出先として、横浜市福祉調整委員会のチラシを掲示し、中区こども家庭支援課の相談パンフレットを玄関に置いている。		

評価領域Ⅱ 保育の実施内容

評価分類Ⅱ－１ 保育内容

【遊び】

評価項目Ⅱ－１－（１）

子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもがおもちゃや教材等を自分で取り出して遊べるようになっている。	
	<input type="radio"/> 年齢や発達にふさわしい環境構成に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ落ち着いて遊べる環境を確保している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自分の好きなことをして遊び込める時間が十分に確保されている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもが取り出しやすい玩具入れと棚を設置し、自由に遊べるようにしている。 ・職員間で連携を図り、狭い空間を最大限に工夫し環境を整え遊びが展開出来るようにしている。 ・子どもの興味関心や成長に合わせて玩具や絵本の入れ替えを定期的に行っている。		

その
他の

評価項目Ⅱ－１－（２）

遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 子どもがそれぞれ自由にごっこ遊びをしたり、落ち着いて一人で遊んだりしている。	
	<input type="radio"/> 一斉活動は、みんなで一緒に遊ぶ楽しさとともに、友達関係やルールを守る等の社会性を重視して、年齢に応じて取り入れている。	
	<input type="radio"/> 自由遊びの中で一人一人が興味・関心を持って遊べるよう、保育士が援助している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・年齢に応じてルールのある遊びを取り入れ、子どもが興味を持った遊びを行事の内容につなげていくなど工夫している。 ・幼児クラスは廃材やはさみやサインペン等のり等、色々な道具や材料を使って自由に遊んでいる。 ・年長クラスは子どもたちからの意見を、行事やクッキングや園外活動などに取り入れ主体性を育む保育を行っている。		

評価項目Ⅱ－１－（３）

動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 栽培や飼育を通して得られる体験を、保育活動にフィードバックしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが散歩等で、日常的に地域の大人や子どもたちと挨拶・会話を交わしている。	
	<input type="radio"/> 園外活動で地域を知り、自然に触れる機会を積極的に設けている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・栽培した野菜を収穫し食育活動につなげている。 ・メダカを飼育し登降園時、見やすい場所に置いている。 ・散歩先を年齢や発達や季節に合わせて選択しながら、近隣の公園などで自然と触れ合える機会を大切にしている。		

評価項目Ⅱ-1-(4)

子どもが歌やリズム、絵や文字、体を動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自由に使えるように様々な素材を用意するなど配慮されている。	
	<input type="radio"/> 子どもが自由に歌ったり、絵や文字を描いたりしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・折り紙・新聞紙・画用紙・廃材等、いろいろな素材の物が玩具棚にあり、のり・セロテープ・サインペン等の道具も年齢に応じた道具を自由に使えるようにしている。 ・保育中に楽しく体を動かしたり、表現遊びしたりすることを行事につなげている。 ・幼児クラスは専門講師による月二回の体操教室に参加し、楽しく体を動かす機会を保育に取り入れている。		

評価項目Ⅱ-1-(5)

遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子ども同士のけんか等については、危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう援助している。	
	<input type="radio"/> 異年齢の子ども同士が関わりを持てるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 職員は、常に公平で温かい態度・言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・けんか等については、子ども同士が自分の気持ちを伝え合えるように、職員が仲立ちをしたり側で見守りながら関わりを深めている。 ・職員は、子ども一人ひとりの思いに寄り添い、優しく丁寧な関わりを心掛けている。		

評価項目Ⅱ-1-(6)

積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 散歩や屋外活動などを積極的に取り入れている。	
	<input type="radio"/> 散歩や屋外活動などを行う際には、紫外線対策やアレルギーへの対処を行っている。	
	<input type="radio"/> 様々な遊びの中で、子どもの興味や関心、能力に応じて全身を使って楽しく活動できるよう工夫している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・個人帽子にはネックガードが付いており、夏季は園で虫よけを用意しスプレーして散歩に出かけている。 ・ウッドデッキやベランで遊ぶ際、紫外線の強い時期は直射日光を避け、遮光テントの下で遊んでいる。		

【生活】

評価項目Ⅱ-1-(7)

食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士が、子どもの負担になるほどに残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりせず、個人差を考慮しながら援助している。	
	<input type="radio"/> 子どもが自分から食べようとする意欲や行動を大切にしながら、適切な言葉かけや援助をしている。	
	<input type="radio"/> 子どもたちが食事及びその過程（調理・配膳・片づけ）に関心を持つよう工夫している。	
	<input type="radio"/> 野菜などの栽培や、様々な食材を目にしたたり触れたりする機会を設け、調理員との関わりにも配慮している。	
	<input type="radio"/> 乳児の授乳にあたっては、ほしがる時に、抱っこして声をかけながら与えるようにしている。（注※1）	
	<input type="radio"/> 授乳するときや離乳食を食べさせる時は、子どものペースを尊重している。（注※1）	
B	Aの中でいずれか4つは該当する。対象乳児がない場合は2つは該当する。	
C	Aの中で1～3つ該当する、または全く行っていない。対象乳児がない場合は1つのみ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・幼児は子どもが食べれる量を保育士に伝え、量を調整し完食できる喜びを味わえるようにしている。 また、乳児も個々の発達や好き嫌いに応じ、大きさや量を調整している。		

評価項目Ⅱ-1-(8)

食事の場、食材、食器等に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 季節感がある献立や食欲がわくような盛りつけなどの食事作りに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食事の場としての雰囲気づくりに配慮している。	
	<input type="radio"/> 食材や食器の安全性に配慮している。	
	<input type="radio"/> 子どもの成長・発達や用途に即した食器を使用している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・季節の食材やメニューを献立に取り入れている。 ・毎月1回、郷土料理のメニュー提供日があり、栄養士が料理の由来を子どもたちに話をしたり、食への興味関心を広げている。 ・衛生面に配慮しながら、幼児クラスはクッキング活動を取り入れている。 ・授乳や離乳食の提供は個々のペースで行い、温かい雰囲気の中で食事を進めている。		

評価項目Ⅱ-1-(9)

子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に生かしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの好き嫌いを把握し、盛り付けや調理方法を工夫している。	
	<input type="radio"/> 栄養士や調理担当者が、子どもたちの食事の様子を見る機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 残食を調査記録し、献立・調理の工夫に反映させている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・毎月、給食会議を行い、子どもの喫食状況や食事の様子を伝え、盛り付けや調理法など次の提供時にいかしている。 ・栄養士が、箸の使い方や行事食の話をしたり、食事の様子を見に来てくれる。		

評価項目Ⅱ-1-(10)
子どもの食生活について、家庭と連携しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 献立表を作成し、事前に配布している。	
	<input type="radio"/> 献立作成のポイントを明記した情報提供を行っている。	
	<input type="radio"/> 定期的にレシピを提示し、保護者に保育所で提供する食事に対する関心をもてるようにしている。	
	<input type="radio"/> 保護者が試食できる機会等を設けて、栄養・味付け・食べ方（噛み方）等、保育所で配慮していることを知らせている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・毎月、献立表と給食だよりを配布している。またアレルギー食献立表は、栄養士・園長・担任が確認後保護者に配布し保護者の方にも確認をお願いしている。 ・入園時、離乳食の試食会を設け、一人ひとりの食事の形態を保護者と確認し、同じ形態の物を園でも提供できるようにしている。 ・人気のあるメニューのレシピを定期的に用意し設置している。		

評価項目Ⅱ-1-(11)
午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を強要せず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしている。	
	<input type="radio"/> 安心して心地よい眠りにつけるよう、午睡・休息の場を工夫している。	
	<input type="radio"/> 乳幼児突然死症候群に対する対策を行っている。	
	<input type="radio"/> 年長児には適当な時期から午睡を一斉活動としていない。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・0歳児クラスは午睡センサーを導入し、SIDSの予防に努めている。 ・眠れない子は、布団に横になり体を休めるか、エレベーターホールで過ごすなど無理のないよう個別に対応している。 ・各クラス、入眠しやすいよう午睡中に静かな音楽を流している。		

評価項目Ⅱ-1-(12)
排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 一人一人の排泄のリズムをとらえ、個人差を尊重している。	
	<input type="radio"/> トイレトレーニングは一人一人の発達状況に応じて個別に対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所での排泄状況を保護者に伝え連携を密にしている。	
	<input type="radio"/> おもらしをした子どもを激しく叱ったり、心を傷つけるような対応をしてはならないことを、全職員が認識している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・トイレトレーニングは家庭と連携を取りながら、一人ひとりの発達状況に合わせ無理のないように進めている。 ・おもらしした際はシャワーで体を流し、清潔に気持ちよく過ごせるようにしている。		

評価項目Ⅱ-1-(13)

長時間にわたる保育のための環境を整え、配慮した保育が行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 子どもの状態に応じ、ゆったりとくつろいで過ごすことができるよう、玩具やコーナーを工夫し環境を整えている。	
	○ 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつを提供している。	
	○ 子どもの状況について、保育士間の引き継ぎを適切に行い、子どもが安心して過ごせるようにしている。	
○ 担任等子どもを担当する保育士と保護者の連携が十分にとれるよう配慮している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・ 時間外保育用の玩具を用意している。 ・ 早番、遅番での保護者への伝達事項は、クラスの連絡ノートに記入し口答でも引き継ぎを行い、伝え忘れないよう伝達後連絡ノートにチェック記入している。		

評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理

[健康管理]

評価項目Ⅱ－２－(1)

子どもの健康管理は、適切に実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人一人の健康状態を把握している。	
	<input type="radio"/> 既往症について常に保護者から情報を得られるように努め、対応を関係する職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて園での子どもの健康状態を保護者に伝え、降園後の対応について話し合っている。	
	<input type="radio"/> 食後の歯磨き指導を行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・健康管理や衛生管理に関するマニュアルを整備しており、職員はいつでも閲覧できるようになっている。 ・年2回、生活状況書を返し、既往歴や予防接種の追加を保護者に定期的に追記してもらい園も把握に努めている。		

評価項目Ⅱ－２－(2)

健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 一人一人の健康診断・歯科健診の記録がある。	
	<input type="radio"/> 健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝え、連携を密にしている。	
	<input type="radio"/> 健診結果に基づき、嘱託医やかかりつけ医との連携を図っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・子どもたちの健康面でいつでも相談できるよう嘱託医と連携が取れている。 ・健康診断や歯科検診の結果を保護者に伝え早期治療につなげている。		

評価項目Ⅱ－２－(3)

感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応がマニュアルに明記され、保護者に周知している。	
	<input type="radio"/> 保育中に発症した時は、保護者への連絡をすみやかにし、対応については保護者の事情も考慮している。	
	<input type="radio"/> 感染症が発生した時は、速やかに保護者に情報提供している。	
	<input type="radio"/> 感染症に関する最新情報を職員が共有している。	
B	感染症等への対応に関するマニュアルがある。	
C	感染症等への対応に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・嘔吐処理などの感染症の対応について、毎年園内研修を行い職員で確認している。 ・感染症が発生した際、園内の掲示板や一斉メールで情報共有し感染拡大防止に努めている。また、罹患児が特定されないよう注意している。		

【衛生管理】

評価項目Ⅱ-2-(4)

衛生管理が適切に行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> マニュアルは、職員参加により定期的（内容により異なるが、最低年1回を目安）に見直しを行っている。	
	<input type="radio"/> マニュアルの内容を全職員が共有するため、定期的（採用時に1回、採用後は最低年1回）に研修を実施するなど、具体策を講じている。	
	<input type="radio"/> マニュアルに基づき清掃等が行われ、清潔・適切な状態が保たれている。	
<input checked="" type="radio"/> B	衛生管理に関するマニュアルがある。	
C	衛生管理に関するマニュアルがなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・感染対策のため、職員はこまめに手洗いと手指消毒を行い清潔を保っている。 ・毎日、乳児クラスは玩具の消毒を行っている。		

【安全管理】

評価項目Ⅱ-2-(5)

安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 睡眠中、プール活動、水遊び中、食事中等の場面で重大事故が発生しやすいことを理解し、子どもの主体的な活動を大切にしつつ対策を講じている。	
	<input type="radio"/> 地震等を想定し、備品等の転倒防止など安全対策を講じている。	
	<input type="radio"/> マニュアルは、事故や災害に適切に対応しており、全職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 緊急連絡体制が確立している。	
	<input type="radio"/> 通報や連絡体制の予行演習、地域の避難場所等への誘導などの訓練を実施している。	
<input type="radio"/> 職員が救急救命法を身につけている。		
<input checked="" type="radio"/> B	安全管理に関するマニュアルがあり、Aの中で4つ以上該当する。	
C	安全管理に関するマニュアルがない。または、Aの中で1～3つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・安全管理に関するマニュアルは整備されている。 ・プール遊びや水遊びの際、必ず監視役を1名配置し、安全対策に努めている。 ・災害時の津波対策として、近隣のマンションやスーパーと連携を取り避難場所にさせてもらっている。 ・全職員が年に1回の北方消防署の方による救急救命法研修に参加し適切な対応を身につけている。また、横浜市の救急救命法研修にも参加し知識の構築にも努めている。		

評価項目Ⅱ-2-(6)

事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者や救急機関、地域への連絡体制が確立している。	
	<input type="radio"/> 子どものケガについては、軽傷であっても必ず保護者に状況を報告し、記録している。	
	<input type="radio"/> 職員会議などで事故の報告、再発防止策の検討が行われ改善策が実行されている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・毎月、職員会議でヒヤリハットや事故記録簿を共有し要因の分析や改善を行い再発防止に努めている。 ・医療機関・関係機関の連絡先が一覧表になっており事務室と玄関に掲示している。また、受診する際の手順書も事務所に掲示している。		

評価項目Ⅱ-2-(7)
外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 不審者等の侵入防止策（出入口の施錠等）が講じられている。	
	<input type="radio"/> 不審者等に対する緊急通報体制が確立されている。	
	<input type="radio"/> 不審者の情報が関係機関、近隣住民等から得られるネットワークができています。	
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな状況を想定しての不審者対応訓練を実施し、子どもたちにも自分で自分の身を守ることの大切さを伝えている。 ・警備会社と契約し、24時間体制で園の管理をお願いし防犯カメラを設置している。 ・玄関の自動ドアの開閉時もドアが閉まるのを毎回確認することを保護者にもお願いし、不審者侵入防止に努めている。 		

評価分類Ⅱ-3 人権の尊重

評価項目Ⅱ-3-(1)

保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもに対して威圧的な言葉遣い、無視が行われないよう、職員間で相互に配慮している。	
	<input type="radio"/> せかしたり強制したりせず、穏やかに分かりやすい言葉で話している。	
	<input type="radio"/> 子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもの最善の利益を保證する保育を行い、一人ひとりの個性を尊重する関わりを大切にしている。 ・否定的な言葉ではなく肯定的な言葉で対応するよう努めている。・子どもを呼び捨てにしないことを職員間で周知し実践している。		

評価項目Ⅱ-3-(2)

必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 友達や保育士の視線を意識せず過ごせる場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、子どもに威圧感を与えず一対一で話し合える場所がある。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて、プライバシーを守れる場所を用意することができる。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・落ち着いた過ごす場所として図書コーナーやエレベーターホールを使用したり、パーティションを活用している ・夏季のプール遊びや 泥んこ遊びの着替えなど外部から見えないよう目隠しネットを使用し配慮する。		

評価項目Ⅱ-3-(3)

個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 守秘義務の意義や目的を全職員（ボランティア・実習生含む）に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについてガイドラインをつくり、全職員に周知している。	
	<input type="radio"/> 個人情報の取り扱いについて、保護者に説明し了解を得ている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・個人情報保護規定が整備されており職員でも周知している。 ・実習生やボランティアにもオリエンテーションの時に説明し厳守するよう指導している。 ・保護者に園児の写真使用の承諾書を取っている。		

評価項目Ⅱ-3-(4)

性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていない。	
	<input type="radio"/> 順番、グループ分け、整列など性別にしている。	
	<input type="radio"/> 子どもや保護者に対して、父親・母親の役割を固定的にとらえた話し方、表現をしないようにしている。	
	<input type="radio"/> 無意識に性差による固定観念で保育をしていないか、職員同士で反省する仕組みをつくっている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもの意思を尊重し、グループ分けや順番決めや色決め等行っている。		

評価分類Ⅱ-4 保護者との交流・連携

評価項目Ⅱ-4-(1)

保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者に対しては、全体会または懇談会などで説明する機会を設けている。	
	<input type="radio"/> 保護者に対して、園独自のアンケートなどで保育方針が理解されているかどうか把握している。	
	<input type="radio"/> 日常保育の中で、園だよりや連絡帳などで保育方針が理解されるよう努力している。	
	<input type="radio"/> 入園時に配布する重要事項説明書（園のしおり）やパンフレットなどに保育方針を明記している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・重要事項説明書や園のパンフレットや4月の園だよりに記載し、入園説明会や懇談会でも話をしている。		

評価項目Ⅱ-4-(2)

個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 子どもの送迎時に、その日の子どもの様子を伝えるよう配慮している。	
	<input type="radio"/> 連絡帳やメールなどできめ細かに情報交換を実施している。	
	<input type="radio"/> 保護者の意向を踏まえて個別面談を実施している。	
	<input type="radio"/> クラス全体の様子を伝える保護者懇談会等を実施している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・懇談会は年2回行い保護者の方と情報交換、情報共有を行っている。 ・各クラス期間を設け保育参加・個人面談を行っている。また、必要に応じ随時、応じており保護者の方が相談しやすいよう雰囲気づくりに努めている。		

評価項目Ⅱ-4-(3)

保護者の相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 相談内容などを人に聞かれないで相談できるよう、配慮している。	
	<input type="radio"/> 相談を受けた職員が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制になつてる。	
	<input type="radio"/> 相談は記録し、継続的なフォローができています。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・個人面談や相談事は、事務室や休憩室で面談を行い配慮している。また、複数の職員で対応できるようにしている。 ・保護者が相談しやすいような雰囲気づくりに努めている。		

評価項目Ⅱ-4-(4)

保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 「園だより」などを定期的に発行している。	
	<input type="radio"/> 園内に、その日の保育の様子を知らせる情報を掲示している。	
	<input type="radio"/> クラスごとの保護者懇談会などで、保育内容・目的を分かりやすく説明し情報提供を図っている。	
	<input type="radio"/> ビデオや写真などを撮って、日常の保育の様子を伝える努力をしている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・クラスごとにドキュメンテーションを作成し日頃の保育の様子を保護者に伝えている。 ・毎月、写真販売を行っている。 ・園だよりやクラスだよりやホームページなどでも保育の様子を伝えている。		

評価項目Ⅱ-4-(5)

保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 年間行事予定であらかじめ日時を知らせ、保護者が保育参加のための休暇等の予定を立てやすくしている。	
	<input type="radio"/> 保育参観または保育参加を積極的に受け入れている。	
	<input type="radio"/> 保育参観、懇談会等に出席できなかった保護者へのフォローを行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・年度初めに年間行事計画表を配布し、予定の変更がある場合は速やかに一斉メール等で知らせている。 ・クラスごとに保育参加期間を設けている。都合が合わない時は別日を設けるなどし、参加しやすいよう配慮している。		

評価項目Ⅱ-4-(6)

保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保護者が自主的な活動をできるように場所等の提供をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者の活動に要請があれば職員も参加をしている。	
	<input type="radio"/> 保護者（組織）とは常にコミュニケーションをとっている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・保護者組織はないが、運営委員会を設け、保護者代表3名、地域の方2名と園長、主任、事務員で構成しており年に3回委員会を開催し、情報交換や意見交換を行っている。		

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価項目Ⅲ-1-1

地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 地域の保護者や子ども等との交流の中で、保育所に対する要望を把握するための具体策を講じている。	
	<input type="radio"/> 地域の保護者等に対する相談事業を通じて把握している。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて関係機関や他の保育所等との検討会・研究会を行っている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・今年度から中区子育て支援ネットワークに参加し、専門機関や地域の子育て当事者の方と情報交換を行っている。 ・毎月行う誕生会に地域の方を招待し交流を図りながら、子育て相談もしている。 ・園内見学の際、育児相談の内容から保育ニーズの把握に努めている。		

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="radio"/> 地域の子育て支援ニーズについて、定期的（年に1回程度）に職員間で話し合われている。	
	<input type="radio"/> 地域での子育てを支援するためのサービス（一時保育、交流保育、園庭開放等）を提供している。	
	<input type="radio"/> 地域の保護者や子ども等に向けて子育てや保育に関する講習・研修会を開催している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・図書の貸し出しや、園見学の方に子育て通信や子育てイベントのチラシを配布し情報共有している。 ・誕生会に誕生カードも用意し地域の親子を招待している。		

評価分類Ⅲ－２ 保育所の専門性を生かした相談機能

評価項目Ⅲ－２－(1)

地域の保護者や子ども等への情報提供や育児相談に応じているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 情報提供や育児相談を実施している。	
	<input type="radio"/> 育児相談については、定期的（最低週に1回）に相談日を設けて対応している。	
	<input type="radio"/> 保育所からのお知らせを地域に回覧するなどして、情報提供に努めている。	
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・毎月、園だよりを町内会や近隣の小学校に届けている。小学校からもおたよりが郵送され双方で情報共有している。 ・園見学時に育児相談を受けたり散歩先でも地域の方の相談に対応している。		

評価項目Ⅲ－２－(2)

相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 必要な関係機関・地域の団体等をリスト化する等により情報を職員が共有している。	
	<input type="radio"/> 関係機関との連携の担当者が決められている。	
	<input type="radio"/> 関係機関・団体等との日常的な連携ができている。	
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・中区子ども家庭支援課や保健センター等、関係機関と連携を取っている。		

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価項目Ⅳ－１－(1)

保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	B
	<input type="checkbox"/> 保育所の行事に地域の保護者や子ども等を招待している。	
	<input type="checkbox"/> 自治会・町内会、学校、ボランティアグループ等と協力して行事を行うなど、地域の団体、機関と定期的（年1回以上）、計画的に交流を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 小中高等学校など、学校教育との連携を積極的に図っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域への施設開放や備品等の貸し出しを行っている。	
<input type="checkbox"/> 近隣との友好的な関係を築くための取り組みを行っている。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・必要時にAEDの貸し出しが出来ることを知らせるために設置のステッカーを貼っている。また、町内にもAEDを設置していることを伝えている。 ・設置法人の専門学校生の実習先として連携を図っている。また、随時、ボランティアや職業体験を受け入れている。		

評価項目Ⅳ－１－(2)

子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="checkbox"/> 地域の文化・レクリエーション施設等を利用している。	
	<input type="checkbox"/> 日常的に地域の人達と接する機会（散歩・買い物等）に積極的に交流を図っている。	
	<input type="checkbox"/> 日常的に他の保育所・学校・福祉施設等との交流を図っている。	
<input type="checkbox"/> 地域の行事や活動に参加できるよう配慮している。		
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・子どもと一緒に近隣のホームセンターに野菜や花の苗や、遠足のおやつを買いに行ったり、地域の公園で老人会のラジオ体操に参加し交流を持っている。 ・年長児は姉妹園や近隣の保育園、小学校と交流を行っている。 ・地域の動物園やログハウスに遊びに出かけ施設を利用している。 ・地域のイベントのポスターを掲示し情報提供しています。		

評価分類Ⅳ－２ 保育所における福祉サービスに関する情報提供

評価項目Ⅳ－２－(1)

将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="checkbox"/> 保育所のパンフレット・広報誌・ホームページ等により、地域や関係機関に随時、情報を提供している。	
	<input type="checkbox"/> 外部の情報提供媒体に対して保育所の情報を提供している。	
<input type="checkbox"/> 保育所として、すすんで福祉サービス内容の詳細、料金、職員体制等、必要な情報を提供している。		
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・中区民まつりや町内の育児支援イベントで園のパンフレットを配布している。 ・保育園外の掲示板や地域の掲示板や子育て広場等に誕生会のお誘いや絵本の貸し出し、育児相談など地域に向けての育児支援内容のポスターを掲示し知らせている。 ・ホームページに重要事項説明書などを掲載し情報提供している。		

評価項目Ⅳ－２－(2)

利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所の基本方針や利用条件・保育内容等についての問い合わせに対しては、常時対応できるようになっている。	
	<input type="radio"/> 利用希望者に見学ができることを案内している。	
	<input type="radio"/> 保育に支障をきたさない範囲で、曜日や時間は見学希望者の都合に対応している。	
<input checked="" type="radio"/> B 保育所の基本方針や利用条件・保育内容等について、パンフレット等の資料や文書に基づいて説明している。		
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・園見学は随時受け付けている。また、メールでの問い合わせにも対応している。見学の際には、園のパンフレットを配布しそれを基に説明している。		

評価分類Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ

評価項目Ⅳ－３－(1)

ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 受け入れにあたり、あらかじめ職員や保護者に基本的考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 受け入れと育成の担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	<input type="radio"/> ボランティアの感想や意見を園運営に反映させている。	
<input checked="" type="radio"/> B 受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づきボランティアに対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。		
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・中学性と高校生のボランティアを受け入れている。また、受け入れる際は必ずオリエンテーションを行っている。 ・高校キャリア教育の一環として、職員が高校内進路ガイダンスに出向いている。 ・付属の保育士養成校以外からも実習生を受け入れ保育士の育成に努めている。		

評価項目Ⅳ－３－(2)

実習生の受け入れを適切に行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 受け入れにあたり、あらかじめ職員や保護者に基本的な考え方・方針が理解されるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 受け入れのための担当者が決められており、受け入れ時の記録が整備されている。	
	<input type="radio"/> 実習目的に応じた効果的な実習が行われるためにプログラム等を工夫している。	
	<input type="radio"/> 実習生と職員との意見交換の機会を設けている。	
<input checked="" type="radio"/> B 受け入れのためのマニュアル等があり、それに基づき実習生に対して保育所の方針、利用者への配慮等を十分説明している。		
C	受け入れのためのマニュアル等がなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・実習生受け入れについては、保護者の方に重要事項説明書や懇談会で話をし同意を得ている。 ・学校側の実習のねらいや目標を職員に伝え、効果的な実習が行えるようにしている。		

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類V-1 職員の人材育成

評価項目V-1-1(1)

保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ 次の全てに該当する。	A
	○ 保育所運営に十分な人材構成であるかをチェックし、必要な人材の補充を逐次行っている。	
	○ 保育所の理念・方針を踏まえた保育を実施するよう、人材育成の計画が策定されている。	
	○ 保育所の保育の課題や職員のキャリアパスも見据えて、体系的な研修計画が作成されている。	
	○ 個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定め、達成度の評価が行われている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・経験年数に応じたキャリアパス計画を立て、役職制度があり、役職に応じて職務内容が明文化されており、職務を遂行している。 ・毎年、職員は目標を立て年度末に振り返りをし自己評価を行っている。		

評価項目V-1-1(2)

職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	B
	○ 内部研修が定期的を実施され、職員・非常勤職員とも必要な職員が必ず受講できる。	
	○ 園外の研修会、大会等への参加、他の福祉施設での実地研修等が特定の職員に偏ることなく積極的に行われている。	
	○ 研修の成果を職場で生かすための工夫がされている。	
	○ 研修の成果を評価して、研修内容を常に見直している。	
B	○ 職員の研修ニーズにも配慮し、研修担当者が研修計画を作成している。	
C	○ 保育所としての研修計画を作成しておらず、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・救急法研修は全職員が毎年参加しているが、毎月職員会議で行っている園内研修の内容は、毎月非常勤会議で内容を共有している。		

評価項目V-1-1(3)

非常勤職員等にも日常の指導を行っているか

判断基準		評価 (A・B・C)
A	○ Bに該当したうえで、次の全てに該当する。	A
	○ 業務にあたっては職員と非常勤職員の組み合わせなどの配慮をしている。	
	○ 非常勤職員に対し、職員と同様に資質向上への取り組みを行っている。	
	○ 非常勤職員の指導担当者が定められ職員間のコミュニケーションが図られている。	
B	○ 非常勤職員にも業務マニュアルが配布されている。	
C	○ 業務マニュアルもなく、取り組みが不十分である。	
その他の工夫事例： ・月に一度、非常勤会議を行って情報共有している。また、職員会議録は毎月閲覧することになっている。		

評価分類V-2 職員の技術の向上

評価項目V-2-(1)

職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 職員の振り返りや、保育所の自己評価を計画的に行う仕組みを持っている。	
	<input type="radio"/> 工夫・改善した良いサービス事例をもとに、一層の保育の質の向上を目指した会議・勉強会が開かれている。	
	<input type="radio"/> 必要に応じて外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・横浜市指導監査や第三者評価を受審している。		

評価項目V-2-(2)

保育士等が保育や業務の計画及び記録を通して自らの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士等一人一人が、自己の実践の振り返りをし、文章化できるように計画や記録の書式が定型化されている。	
	<input type="radio"/> 振り返りは、計画で意図した保育のねらいと関連付けて行われている。	
	<input type="radio"/> 保育の振り返りは、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの育ちや意欲、取り組む過程などを重視して行っている。	
	<input type="radio"/> 保育士等一人一人が振り返りを通して自己の実践を評価し、改善やその後の計画作成に反映させている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・保育の振り返りは、できた・できないでなく、子どもの育ちや取り組む過程を大事にしている。 ・保育士の自己評価を行っている。		

評価項目V-2-(3)

保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育士等の自己評価の結果を互いに報告し合い、話し合っている。	
	<input type="radio"/> 保育士等の自己評価の結果から、保育所としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいる。	
	<input type="radio"/> 保育所としての自己評価は、保育所の理念や保育の方針、全体的な計画に沿って行われている。	
	<input type="radio"/> 保育所としての自己評価を公表している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・園の自己評価を学園のホームページで公表している。		

評価分類V-3 職員のモチベーションの維持

評価項目V-3-(1)

総合的な人事管理が行われているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 法人（保育所）の理念・基本方針にもとづき人材育成計画が示されているとともに、配置や昇進・昇格等に関する人事基準が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="radio"/> 職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価する仕組みがある。	
	<input type="radio"/> 職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="radio"/> 評価については、職員に開示する仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・特別昇給制度があり、給料規定に明文化されている。 ・就業規定に異動や昇給などについて明確化されており職員に周知している。		

評価項目V-3-(2)

本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されている。	
	<input type="radio"/> 子どもと保護者の状況に応じ自主的に判断できるように、現場の職員に可能な限り権限を委譲し、責任を明確化している。	
	<input type="radio"/> 職員から業務改善の提案を募ったり、意見を聴取するためのアンケートなどを実施している。	
	<input type="radio"/> 個別の面接・調査等により、職員の満足度・要望などを把握している。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・年に2～3回、園長と個人面談を行っている。意見や要望を聞いたり、日常的にも相談がある時には随時面談に応じている。		

評価領域VI 経営管理

評価分類VI-1 経営における社会的責任

評価項目VI-1-1(1)

保育所として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 組織及び職員が不正・不適切な行為を行わないよう守るべき法・規範・倫理等が明文化され職員に周知されている。	
	<input type="radio"/> 経営、運営状況等の情報が積極的に公開されている。	
<input type="radio"/> 保育施設での不正、不適切な事案を題材とした研修を行い、それらの行為を行わないよう啓発している。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・学園のホームページに運営状況等の情報や自己評価、第三者評価を公開し、毎年更新している。 ・運営委員会でも情報公開を行っている。		

その他の工夫事例：

- ・AEDを設置していることを町内にも伝えている。
- ・設置法人の専門学校生の実習先として連携を図っている。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所における事務、経理、取引等に関するルールや職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に明文化したものを配布している。	
	<input type="radio"/> 保育所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	
<input type="radio"/> 外部監査の指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・月に一度学園財務部による内部現金監査を実施している。		

評価項目VI-1-1(3)

保育の質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っている。	
	<input type="radio"/> 省エネルギーの促進・緑化の推進などの取り組みを行っている。	
<input type="radio"/> 環境配慮の考え方、取り組みが明文化され、運営に生かされている。		
B Aの中でいずれか1つは該当する。		
C 上記のいずれにも該当しない。		
その他の工夫事例： ・こまめに電気を消したり、エアコンにファンを付けて省エネルギー対策に努めている。 ・個人情報の書かれていないミスプリントや使用済みの用紙を裏紙として利用している。		

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価項目VI-2-(1)

保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を明文化したものを掲示または職員に配布している。	
	<input type="radio"/> 職員に朝礼・会議等で周知し、理解を促すための説明をしている。	
	<input type="radio"/> 理念・基本方針を職員が理解できているか、施設長・主任が定期的（採用時1回、採用後は最低年1回）に確認している。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・事務室や各保育室に保育理念・目標・方針を掲示し、職員会議でも定期的に説明し周知を図っている。		

評価項目VI-2-(2)

重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 重要な意思決定にあたり、施設長は保護者と継続的に意見交換をしている。	
	<input type="radio"/> 重要な意思決定（変更）について、職員及び保護者に目的・決定（変更）理由・経過等を前もって十分に理解できるよう説明している。	
	<input type="radio"/> 異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組む仕組みがある。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・重要な意思決定については、職員や保護者に変更理由や過程を文章にして掲示したり配布や配信し、お知らせしている。		

評価項目VI-2-(3)

主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> スーパーバイズのできる主任クラスを計画的に育成するプログラムがある。	
	<input type="radio"/> 主任が個々の職員の業務状況を把握できる仕組みがあり、有効に機能している。	
	<input type="radio"/> 主任は個々の職員の能力や経験にあわせた確かな助言や指導を行っている。	
	<input type="radio"/> 主任は個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう、具体的な配慮を行っている。	
B	Aの中でいずれか2つは該当する。	
C	Aの中で1つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・主任は個々の業務状況を把握し、見通しをもって職務に取り組めるよう助言を行っている。		

評価分類VI-3 効率的な運営

評価項目VI-3-(1)

外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 保育所運営に影響のある情報を収集・分析している。	
	<input type="radio"/> 重要な情報は幹部職員や主要な職員間で共有するため会議等で議論し、重点改善課題として設定されている。	
	<input type="radio"/> 運営面での重要な改善課題について、職員に周知し、保育所全体の取り組みとしている。	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。	
C	上記のいずれにも該当しない。	
その他の工夫事例： ・改善課題について、中長期計画等に明記し、改善にむけ園全体で取り組んでいる。 ・ICT化の取り組みについて職員で周知し業務に積極的に取り入れている。		

評価項目VI-3-(2)

保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

注) 本項目は、市立保育所については非該当とします。

判断基準		評価 (A・B・C)
A	次の全てに該当する。	A
	<input type="radio"/> 中長期的な事業の方向性を定めた計画を作成している。	
	<input type="radio"/> 中長期的な計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	
	<input type="radio"/> 次代の保育所運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討している。	
	<input type="radio"/> 次代の保育所運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成している。	
<input type="radio"/> 運営に関し、外部の機関や専門家などの意見を取り入れる努力をしている。		
B	Aの中でいずれか3つは該当する。	
C	Aの中で1～2つ該当する、または全く行っていない。	
その他の工夫事例： ・5年ごとに中長期計画を見直しを行い、策定については法人本部が取りまとめを行っている。		